

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100448		
法人名	医療法人 立清会		
事業所名	認知症高齢者 グループホーム 清流荘		
所在地	大分県宇佐市大字山本1658番地		
自己評価作成日	H29年 10 月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

▲地域の一人として、自宅で過ごすのと同じような雰囲気の中で一人ひとりが笑いながら生活できる場として支援させて頂いています。又ターミナルケアでは、ご利用者様、ご家族様の思いに添って安らかな最後を迎えられるように支援しています。
 ▲日々の生活の中では、利用者の出来ることに着目し、それぞれの役割を持ち生活出来るように支援しています。
 ▲御家族様には、面会時に日々の変化を伝えたり、事業所だよりなどで日々の様子をお知らせするなどして信頼関係が築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①法人の医療機関との併設のため、看護師による毎日の健康管理や、重度化や終末期における医療面での連携がとれている
 ②職員の勤続年数が長くチームワークがとれており、家族及び地域との関わりを大切にしながら自宅で過ごすのと同じような雰囲気作りに努めている
 ③年間研修計画を立て、毎月テーマ毎に研修を行っている。また、外部研修も勤務扱いなので参加しやすい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げており。職員1人ひとりが念頭に置き実践している。	理念を目につきやすい場所に掲げており、定期的に理念を掘り下げて話し合い、職員全体で実践につなげている。日常のケアのことで気になることがあればその都度注意している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(お接待等)で交流の場を作ったり、ホーム周辺の散歩や清掃などで地域の方々との交流が図れるように努めている。	地域の行事や催し物には利用者とともに参加している。また、日常的に散歩や買い物などで地域の人と挨拶を交わしたり、中学生の職場体験も受け入れている。事業所の盆踊りやお接待なども参加があり双方向的に交流ができています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も7月13日に地元中学生2名職場体験を受け入れました。認知症の相談窓口として住み慣れた地域での生活が継続できるなど、認知症の人の理解や支援の方法を地域の方々に向けアドバイスできるように、努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修報告、利用者の状況報告等で意見交換を行っている又行事やボランティアの様子を見て頂き感想や意見等をサービスの質の向上に繋げている。	会議では参加者からの質問、意見、要望を受けるとともに事業所の取り組みの報告や、認知症の研修も行っている。また、市職員からの情報提供などもサービスの向上に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者(介護保険課)の方と電話連絡もしくは来訪にて協力関係を構築している。	運営推進会議には介護保険課と包括支援センターの参加があり情報提供も多い。また、介護保険の更新手続きなど電話連絡や出かけていくことで連携がとれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が「身体拘束排除に向けたマニュアル」を基に研修しており、身体拘束をしないケアを心かけている。しかし「緊急やむを得ない」身体拘束を行う場合は、家族に説明し同意書を頂くようにしている。	月1回勉強会を行っており、身体拘束の弊害について全職員で共有し拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、転落防止のため夜間のみベッド柵をしているが、期限を決めて、家族に説明し同意を得ている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や施設内の勉強会を通じて、常日頃より虐待防止について全員学習して人としての尊厳を守り温かい介護に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はミーティングの際に権利擁護及び成年後見制度について研修を行って意識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者が家族に契約書、重要事項説明書を分かりやすく説明し家族の思い、不安を聞き入れ契約するようにしている。契約後も家族に希望や疑問点があったら直ぐに相談できるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た際には、利用者の今の状態を報告し意見や要望を聞き入れるようにしている。今年度は8月6日に家族の会を開催 無記名のアンケートを実施した。	家族の面会時や、あまり訪問のない家族や遠方の家族には手紙や電話で意見を聴くようにしている。今年度は家族交流会を計画し、家族同士の交流や無記名のアンケートを実施した。利用者に対しては日々の関わりの中で意見や希望の把握に努めている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員でのミーティングを月1回行い職員間で意見交換が出来る機会を設けている。又管理者は個人的に面談し意見や悩み等の相談に乗っている。	月1回、意見交換の機会を設けているほか、毎日のミーティングでも日頃から話しやすい雰囲気作りができています。管理者は不定期に個人面接を行い意見の把握に努め、出された意見は業務や設備などの改善につなげている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件等職員各自の意見が反映されており、やりがいがある職場環境を与えている事で向上心を持って働くことが出来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修に参加出来る環境にありその都度一人ひとりに合った研修を受けている。必要とあればミーティング時にマニュアルを基に、全員で研修、講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修、又市で企画している研修に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け生活歴等の情報をコミュニケーションに取り入れ信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂き不明点や要望を伺い家族の不安が解消出来るように努めています。どんな些細な事でも相談して頂けるように、面会時には、声かけをさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人はもとより、家族からの要望があれば、随時対応するように心掛けています。又入居者の状態や家族の要望を聞き、それをもとに介護方法を決めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入居者と共に、食事をしたりお茶を飲んだりしながら家族のような関係づくりに努めています。家庭的な雰囲気の中で、お互いを思い合える環境づくりに留意しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際には、お茶を出し家庭的な雰囲気です話が出来るように配慮している。職員も介護する上で困った事があれば家族の方に遠慮なく話し家族の方と一緒に入居者を支援して行くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の近所の友達が訪ねてきたり、毎月息子夫婦と外食したり、お墓参りに行ったり、自宅に外泊したり、一人ひとりの生活環境を尊重している。	家族や知人、近隣の人たちの訪問が多く、外食、馴染みの美容院や外泊など出掛けることが多い。毎日食事介助に来ている家族もいる。疎遠になっている家族も連絡すれば必ず来てくれるなど、関係継続の支援ができています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが楽しく生活出来るように、個々の入居者の性格、相性を考慮しつつ、入居者同士が楽しく生活出来るように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に、相談があった場合は出来る限りアドバイスをするように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と触れ合う時は、一人ひとりの人格を尊重し対応するように努めています。本人がホームの中で何を思い、何を望んでいるか全職員が観察、記録し本人の意思に沿った生活環境を作り上げるよう努めています	日々の関わりの中で、言葉や表情などから意向の把握に努め、新しい情報は業務日誌に書き、センター方式を用いて職員の観察や気づきをアセスメントしている。全職員で情報の共有を図り、思いや意向の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を念頭に入れ支援を行っています。利用者には、家族、本人から在宅時の生活状況を伺いサービスに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で本人が出来る事は、職員はできる限り口出しせず本人に委ねるようにしています。又心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を家族や本人に見て頂き一緒に情報共有出来るように配慮しています。又その都度家族本人から意見、要望等あれば、それに沿った計画をチームで作成するようにしています。	1ヶ月毎にモニタリングを行い、その都度、家族、本人から意見、要望を聞き、全体会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。作成後は必ず確認してもらっている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日誌に状態や状況を記録し全職員で情報の共有を図りながら支援しています。状態や状況に変化が見られた場合は、その都度チームで見直しを行い統一した支援を実施して行くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、変化やニーズに合わせて柔軟な支援と対応に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のお誘いを通じて、本人の持つ身心の力が発揮できるように、職員付き添いにて安全に過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医については家族、本人と話し合い決定している。その際は殆どが当法人併設の診療所を希望され24時間体制で適切な医療を受けている。但し他医療機関(皮膚科、耳鼻科等)受診する際はご家族に協力を、お願いしている	入居時に希望を聞いているが、ほとんどの利用者が法人の診療所を希望している。他の専門医療機関は家族が受診に同行しており、相互で情報交換を行っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所看護師に随時、入居者の身心の状態を報告しながら健康管理に努めています。現場スタッフもバイタルチェックを行う他、表情観察等を随時行い変化があれば報告して柔軟な対応を心掛けています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に入居者にとって最善の方法を医療機関と相談しながら対応しています。又入居者が入院中少しでも安心して頂けるように、ホームの職員が出来る限り顔を出すようにしています。ケースワーカーを通じて入院時の状態を把握するように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、重度化及び終末期に向けた話し合いを主治医の指示のもと、家族を交えて行っています。家族の意向を把握するように努めています。	看取りの指針を作成し、入居時及び状態変化時は、主治医を交え家族と話し合いをしている。現在終末期の利用者がおり、医療機関と連携しながら支援をしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の観察のポイントや対応方法、心肺蘇生法等の研修を年1回行っています。又対応マニュアルを整備し適切に対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報装置やスプリンクラー等のインフラを整備しています。昼夜想定避難訓練を実施して、通報や避難の方法、併設施設職員との連携等を確認しています。	年2回、昼夜想定防災・避難訓練を実施している。年1回、法人の訓練にも参加し、消防署の指導の下、避難経路の確認も行っている。併設施設との協力体制がとれており、災害によって避難場所を決めている。備蓄もされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁や食べこぼし等他利用者に気づかれぬように対応したり、居室に入る際は声をかけてから入る等プライバシーを損ねないように配慮しています。一人ひとりの人格を尊重しその人その人の性格や郷土にあった声かけをするようにしています。	援助が必要なとき、誇りやプライバシーを損ねるような声かけをせず、自己決定しやすい声かけをするように心がけている。気になる言動が見られたときは、その都度注意をするなど、全体で日常的に意識しながら取り組んでいる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるように、一人ひとりにゆとりと時間をかけ働きかけを行うように配慮している。自分の意思や思いをなかなか口に出せない方には、選択肢をいくつか提供して選んで頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを聞き出しながら希望に沿うように支援しています。必ずしも全員が同じことを行うわけではなく、裁縫や塗り絵、貼り絵に取り組む入居者等希望に沿った生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族からの情報も取り入れ近隣の美容院や移動美容院を利用し本人の希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています。毎日の衣類も本人が準備出来ない入居者に対しては2つの中から選択して頂く等支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで会話を挟みながら楽しく食事が出来るように配慮しています。片付け等も無理強じしないように注視しながら声かけを行っています。	法人の厨房から運ばれた料理を事業所内で温めてつぎわけ配膳している。利用者の状態に配慮した食形態で提供され、職員も同じものを食べながら介助や見守りを行っている。月1回の給食委員会で意見を出し、食生活の向上に努めている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下が見られた時は、チェック表を活用し栄養摂取量の管理を行っています。脱水予防の為水分摂取量のチェック表は毎日記録している。本人と御家族に相談しながら趣向品を取り入れたり個々に合わせた食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じない様に、口腔の清潔を日常的に支援している。毎食後の口腔ケアの声かけ、夜間の義歯の消毒などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら観察、記録を行い支援に活かすように努めています。又排泄パターンや失敗の原因を究明し支援方法を定めるようにしています。紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らせるように努めています。	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間は自室のポータブル使用やおむつ使用の人もいるが、おむつを使用していた人が現在リハビリパンツに変わった事例もある	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックや運動に気をつけており、乳製品を積極的に取り入れている方もいます。状態によっては主治医、家族と相談し整腸剤、下剤等の対応になっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お誘いする時間や順番などを考慮し、湯に浸る時間や湯温を一人ひとり合わせて、ゆったりと入浴が楽しめるように配慮しています。	基本的に週3回、午後に入浴している。その日に入浴できないときは1階と2階で交互に沸かしているので双方で入浴できるように調整している。また体調によっては併設施設の機械浴を利用できる。入浴をいやがるときには決して無理強いせず、タイミングを見て時間や担当者を替えたり、スムーズに入浴できるよう支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は、休めるように配慮していませんが、昼夜逆転してしまう方には、手伝いや話しかけ散歩など日中寝ないような工夫をしています。馴染みの寝具を使用、明かりや布団の厚さの調整をして気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を直ぐ確認出来るようケースファイルに説明書を綴っている。作用、副作用を理解している。変更があった場合には、申し送り簿に記入、体調や精神の変化に注意、観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の個性、現在の能力を考えその人の出来ることを支援している。食器拭き、洗濯物たたみ、掃除をする。新聞、雑誌を読む。工作活動をする音楽を聴く裁縫をする等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域で実施している祭り、イベント等積極的に参加するようにしています。又本人や家族の方の要望があれば外出、外泊が出来るよう臨機応変に対応しています。	地域の祭りや行事、観光地、外食など出掛けることは多い。天候や利用者の希望に応じて買い物や散歩に出掛けている。家族の協力により外食や馴染みの美容院、外泊なども多い。集団で外出できない利用者も車いすで外に出て、日常的に外気に触れる機会を作っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者が管理することはありません。手元にお金がないと不安になられる方の場合はご家族様の了解を得て所持されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご友人、ご親戚からの手紙・ハガキ・郵便物等届いた際は、個人の居室へ持参し場合によっては代読することもあります。電話は希望に応じて取り次ぎしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や飾り付けを行い季節感を感じて頂けるように配慮しています。日常や行事の時の写真を掲示して楽しんで頂いています。トイレ等わかり易い張り紙を貼って混乱しないように工夫しています。	リビングには季節の花やタペストリなどで季節感が感じられる配慮がされている。家具の配置も家庭的で和らげる雰囲気となっております。行事のスナップ写真や作品の飾り付けも和める空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のテーブルや椅子の位置を考え入居者同士の交流を大切にしている。又他フロアの入居者との交流も大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人や家族と相談しながら馴染みの物の持ち込みをして頂いています。状況に応じてご本人と相談しながら配置替えのお手伝いをしています。御家族の写真を貼るなどし心地よく過ごせるように支援しています。	タンス、椅子、机、仏壇など馴染みのものが持ちこまれている。家族写真や行事の写真なども貼られ、各部屋からは外(山、川、通り)が見渡され、開放的で清潔に保たれ、それぞれの居室が個性的で居心地の良さに配慮されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ホールやトイレに手すりを設置して、「歩く」「立てる」など、出来ることを安全に継続して自立した生活が送れるように工夫している。		